

平成29年度地域づくり人材養成講座 最終報告会開催概要

日 時	平成30年1月21日(日) 13:00~14:30
場 所	東海学院大学図書館「大セミナー室」
指導・助言者	東海学院大学人間関係学部心理学科 客員教授 宮本邦雄 先生
参加者	84名(受講者:28名、一般来場者:56名)
共 催	岐阜県環境生活部県民生活課 各務原市産業活力部いきいき楽習課
内 容	<p>本講座で実践してきた地域づくり活動について、多くの方に知っていただくため、報告会を行いました。</p> <p><b>■活動報告</b></p> <p>○自然がいっぱいグループ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>▲グループワーク</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲最終報告会の展示</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲活動報告</p> </div> </div> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>☆自然に恵まれた尾崎地区にある里山を健康づくりに活かす活動を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三峰山、権現山、扇平の3座に登山し、歩数・安全面・見晴らし等の景観確認を行うと共に、良いところ、改善すべきところの検討を実施。 →ルート図作成</li> <li>・アンケート調査を行い、地域の方の登山状況を把握。</li> <li>・調べた歩数を基に、東海学院大学管理栄養学科の学生が、メッツ(運動強度の単位)を使用した山歩きの消費カロリーを大まかに算出し、今後の健康管理に活かすよう案内。</li> </ul> <p>&lt;活動成果等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの方が里山を身近に感じられるルート図を作成することができた。</li> <li>・身近に健康増進について考えてもらうため、個人でも消費カロリーを計算できるよう計算式を示すことができた。</li> <li>・案内板(ルート図)や道などを定期的に手入れする必要性を感じた。</li> </ul> <p>&lt;今後の計画&gt;</p> <p>定期的なメンテナンス活動の計画を立てると共に、ルートやメッツの広報活動を実施していきたい。</p> <p>◎宮本先生コメント</p> <p>楽しく山歩きしながら調査できたことはよかった。たとえば高齢者が歩くのに少し心配な場所だったり、季節ごとの穴場スポットであったり今後紹介していただけるとありがたい。私も参加したいと思う。</p>

## ○シニアがいっぱいグループ



▲グループワーク



▲北方町「ひなたほっこくらぶ」の見学



▲活動報告

### <活動内容>

☆経験豊富なシニアが活躍する場及びシニアが集える地域の居場所づくりを実施

- 常設型サロンを9日間試行開設した。  
→開設にあたり、既存サロンを視察し、運営の参考とした。
- サロン利用者に、アンケート調査を行い、意見の集約を行った。

### <活動成果等>

- 一人暮らしの方が多く集うなど「居場所」としての機能が果たせた。  
→今後の開催について要望があるなど、利用者にとって好評だった。
- サロン利用者が、会場設営に協力するなど、それぞれにできることを行う雰囲気芽生えた。
- 長期的に運営するには、人力的・金銭的対応策を検討する必要があることが分かった。

### <今後の計画>

各務原市尾崎地区社協と情報共有し、継続できるようにしていきたい。



常設サロンにてトランプを実施 ▶

### ◎宮本先生コメント



▲指導・助言者の宮本先生

常設サロンについてニーズがあるのは確かだ。様々な課題をクリアする必要があると思うが、広報に力を入れれば継続的に開設できるのではないかと思う。これからますます一人暮らしの高齢者が増えていくため、少しでもこのような取組みが進んでいくとよいと思う。

## ○交流したいグループ



▲グループワーク



▲「尾崎フェスティバル」でのパレード



▲活動報告

### <活動内容>

☆世代を超えた交流を活発に行うため、既存の地域行事に若者たちが参加

- ・8月に開催された「おざき夏祭り（盆踊り）」に、管理栄養学科の学生の技術を活かし、おすしなどの屋台を出店すると共に、会場を盛り上げるためにライブを実施。
- ・10月に開催された「尾崎フェスティバル（運動会と文化祭を複合したようなもの）」に、ハロウィンの仮装で参加。子どもたちに、お菓子を配布したり、パレードを行ったり、ライブを実施したりして会場を盛り上げた。

### <活動成果等>

- ・今まであまり参加のなかった若者世代が参加したことで、行事が盛り上がった。
- ・行事に参加したことで、他の行事についても何かできないかと、地域の人から声をかけられるようになった。

### <今後の計画>

引き続き地域行事に参加していくと共に、いろんな世代がまちづくりに関わっていけるようにしたい。



おざき夏祭りにておすしの屋台を出店 ▶

## ◎宮本先生コメント

今後も、現在行われている行事を若い力で盛り上げていってもらえたらと思う。発表スライドにあった年代別リレーのバトンが渡される写真は、地域づくりとリンクする象徴的なシーンだと思った。本講座の終わりが活動の終わりではなく、種まきをした（始まり）状態なので、今後世代がつながり、将来につながっていくとよい。



◀ 最終報告会の様子

## ○坂・公園がいっぱいグループ



▲グループワーク



▲「尾崎マルシェ」でのフリーマーケット



▲活動報告

### <活動内容>

☆規制の強化や遊具の撤去等により、あまり利用されなくなった公園について、もう一度存在意義を見直す活動を実施

- ・「尾崎マルシェ」と題し、フリーマーケットや野点、ゲートボール大会や太極拳の披露など公園を使用したイベントを開催。

→開催にあたり、出店者の募集や広報活動を実施した。

- ・イベント来場者に、公園についてのアンケートを実施し、意見の集約を行った。

### <活動成果等>

- ・イベント開催については、予想以上の反響があり手ごたえを感じた。
- ・自分たちが考えていた内容とアンケート結果が、ほぼ一致しており、問題点を数値で裏付けすることができた。
- ・会場準備は気軽にできるが、事前準備は時間と労力を要するため、定期的に行うには、自分たちだけでは困難であり、周りを巻き込む必要があると感じた。

### <今後の計画>

地域内の各自治会にもアンケート結果を通知し、公園の利用方法について提案していくと共に、設置してある看板の表記や、新しい遊具の設置について市の公園担当課へ提案していく。

最終報告会の展示 ▶



### ◎宮本先生コメント

晴天なのに公園に誰もいないという発表スライドの写真は、現状を表す写真だと思った。本来の公園は、こんなんじゃないという気持ちが尾崎マルシェの開催につながったのだと思う。定期的に行うのは困難だという話だったが、なんとか課題をクリアし、継続してもらえるとよい。

◎宮本先生総評

本講座は、学生が参加したことがポイントだと思う。たとえば、自然がいっぱいグループでは、メッツを使用し、消費カロリーを計算するなど、学生の専門性が現れていたのではないかと思う。今後も、はっきりした形でなくても大学として地域貢献をしていきたいし、学生が外で学ぶ場を地域の方に提供してもらえるとありがたい。

■来場者のコメント

- 歩数を減らしたり、山登り以外のルートを作ったりするなど、高齢者向けのものがあるとよい。
- 中山道鶴沼宿ボランティアガイドの会でも、尾崎地区の史跡めぐりルートを現在作成しており、今後一緒にルートを作成できるとよいと思った。
- 継続的に活動を行うには、若い世代の参加が必要になってくると思うので、地域の学校と連絡・連携していくとよいと思う。史跡や自然などであれば、学習の一環となるため、学校側も受け入れやすいのでは。
- 高齢者の増加は、どこでも課題となっている。足腰が弱くサロンに参加できない人に、地域の情報を提供していくことが大切。お互いに地域の情報をもつことが、安全安心な地域につながると思う。
- 学生には、是非来年度以降も関わってほしい。

意見を述べる来場者 ▶

